発掘された真田の城

沼田城跡

沼田市指定史跡沼田城跡
調査・保存整備事業の成果１

令和元年（2019）

沼田城の概要　1

沼田城の位置と環境 / 沼田城の歴史 /
沼田城の構造 / 真田氏改易と破城 /
近代の公園整備 / 現在の沼田城跡 /
沼田城跡の歴史的価値

令和元年度の調査成果　7

調査・保存整備事業について /
『沼田城跡 2』の刊行 /
測量調査 / 地中レーダー探査 /
発掘調査

御殿桜　－コラム－　13

雲海に包まれる
天空の城下町

Numata City lies an inland within the highlands of Japan, and where the winters are cold. The heart of the city sits upon a river terrace formed by the Tone, Usune, nad Katashina Rivers. The fog in the cold snowy mornings is caused by the difference between the temperature of the air, and water.

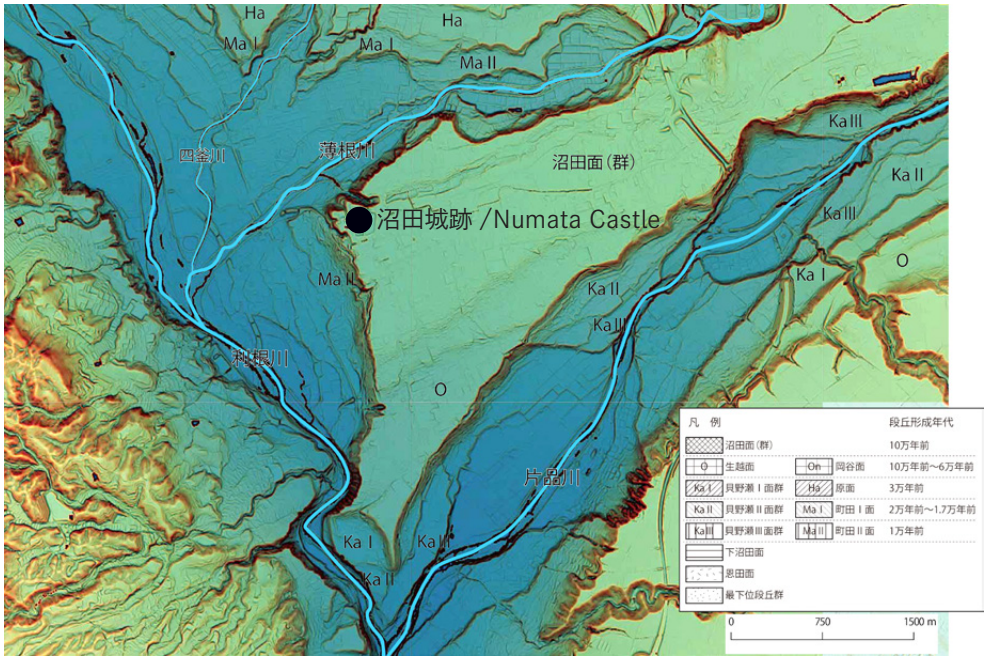
沼田城の概要

Numata Castle is located on one of the most famous river terraces in Japan. This terrace was formed 100,000 – 200,000 years ago. It is over 80 meters tall and has a beautiful view. The Numata family built Numata Castle in 1532. The Sanada family took over the castle in 1583, improved it, and built the town of Numata. But, in 1681, they left, and the castle was demolished. In 1916 Taminosuke Kume purchased the land, and designated that there be a park to preserve the historical monuments. He then donated this park, called Numata Park, to provide the people with a place to rest, relax, and study.

沼田城の位置と環境

沼田市は、赤城山、雨乞山、武尊山、迦葉山、戸神山、三峰山、子持山など、数々の山に囲まれた沼田盆地に位置しています。約２０万年前頃、周辺の山から盆地内へ流れ込み、南へと流れ出ていた河川の流れが赤城山の火山活動による火砕流によって塞がれて、盆地は大きな湖となりました。これを古沼田湖と呼びます。やがて、河川によって運搬される泥や砂礫によって古沼田湖は埋め尽くされました。この泥・砂礫層を「沼田湖成層」と呼び、現在も市内で観察が可能です。約１０万年前から赤城山から多量の砂礫が流れ出し、沼田湖成層の上に扇状地となって堆積しました。これを沼田礫層といいます。扇状地の形成が止むと、流れ込む河川は地表をどんどん削り取り、深い谷地形を形成し、利根川・薄根川・片品川となりました。削り残された部分は高い沼田台地となり、何段もの美しい河岸段丘を作り出しました。

沼田台地の北西端､利根川と薄根川の合流点に面した台地の縁辺に沼田城跡は位置します。利根川・薄根川の低位河岸段丘面との比高差は約８０ｍあり、北側及び西側の眺望が最も効く位置に当たります。



沼田城周辺の地形 /Geography around Numata Castle

沼田城の歴史

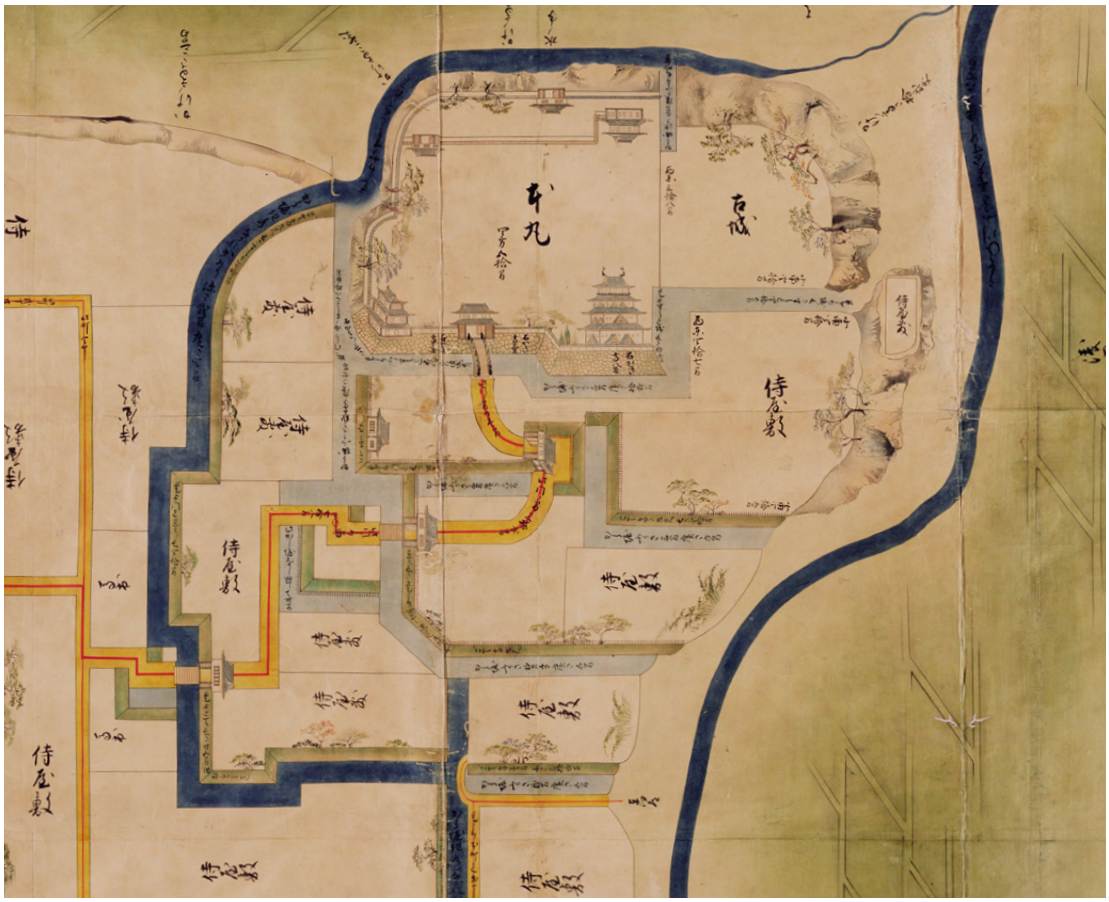
初めて現在の沼田城の場所に城郭を築いたのは、鎌倉時代から利根沼田地域の有力豪族であった沼田氏といわれています。沼田氏は利根川流域の荘園であった沼田荘の在地領主として活動し、はじめ荘田城（井土上町）に、応永 12 年（1405）に小沢城に移り、永正 16 年（1519）には、沼田台地縁辺の幕岩城に城を移しました。そして天文元年（1532）に沼田顕泰によって沼田城は築城されました。

沼田城と周辺の城郭位置図 /Map of Numata Castle and environs /1:25000

沼田顕泰によって築城された沼田城の構造は現在よくわかっていません。『平姓沼田氏年譜略』によれば、滝棚の原の北西の地に本丸を構え、東に南門塀堀を構え星那曲輪とし、また、東南に三ノ丸を、南東方向に無量蔵を祭るとあり、真田氏時代に古城と呼ばれる部分（現在下公園と呼ばれている）が本丸にあたり、その東南に星那曲輪、三ノ丸が続いたことが推定されます。

利根沼田地域は、室町時代から戦国時代中頃まで、越後上杉氏勢力と緊密な関係を結んでいました。戦国時代終わり頃になると、相模北条氏、甲斐武田氏の勢力が増して関東地方の情勢が緊張し、戦国時代末には、利根沼田地域は三者の勢力がぶつかる最前線となりました。沼田城は越後上杉市、相模北条氏、甲斐武田氏勢力の真田氏により争奪が繰り返されましたが、最終的に真田氏の属城となりました。

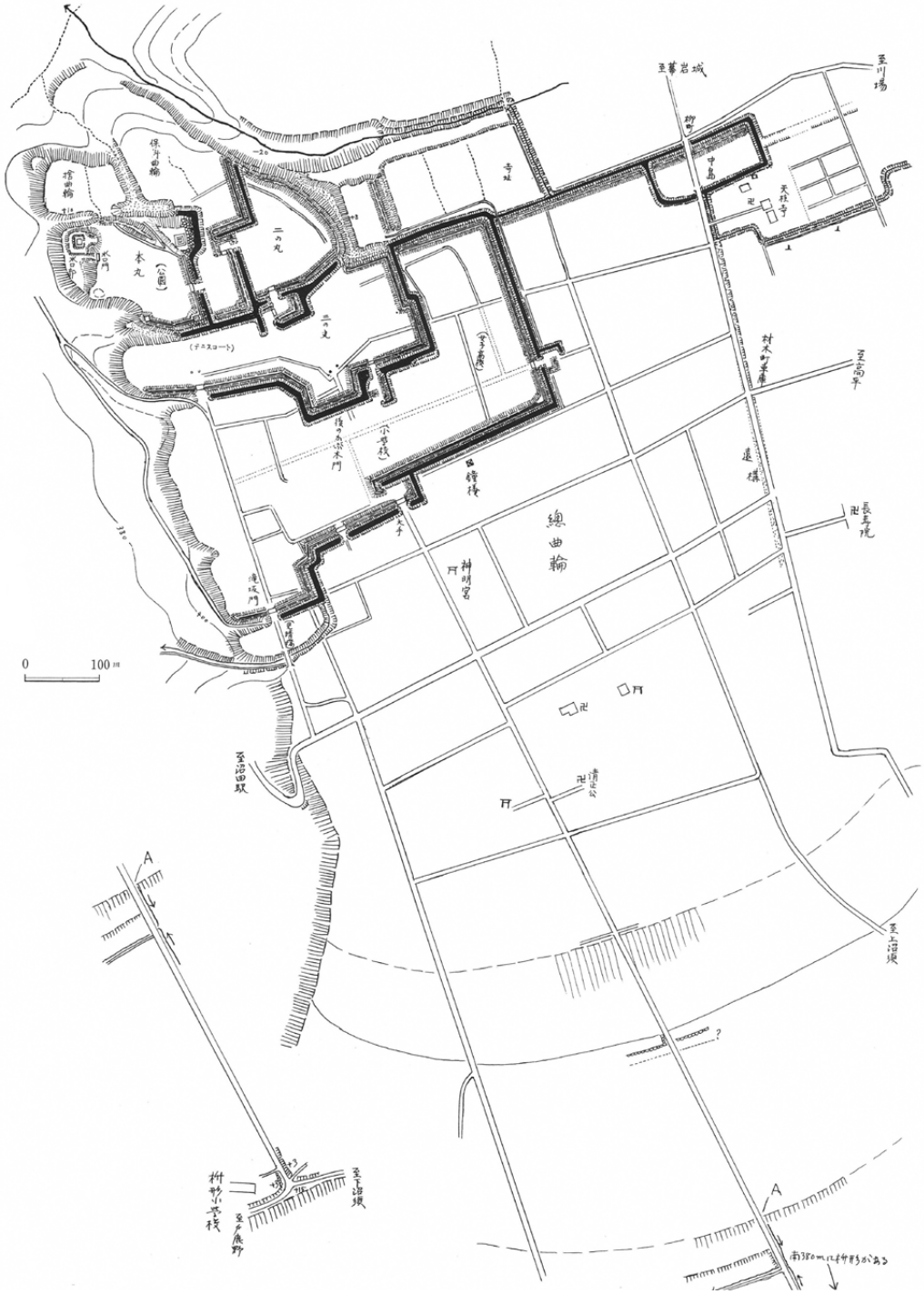
真田氏による沼田城整備は、真田信幸（後に信之）により進められました。天正 11 年（1583）に堀、土塁、大門など主要な施設を普請し、天正 13 年（1585）に入城、その後も普請は継続し、天正 14 年（1586）には二の丸、三の丸が整備されました。天正 18 年（1590）城の改修が行われ、本丸を中心にその東側に保科郭・二ノ丸、南東部に三ノ丸、さらにその外側に外郭が配されました。その南側に位置する城下町の整備も並行して行われ、天正 19 年（1591）に荒町・鷹師町・小人丁（町）を新たに設定し（『沼田町記』）、慶長 2 年（1597）に天守が竣工しました（『平姓沼田氏年譜略』）。慶長 17 年（1612）には大手枡形が築かれ、17 世紀初頭の段階で、沼田城は一定の完成をみました。



正保城絵図　上野国沼田城絵図（部分）　国立公文書館蔵
Shoho Shiroezu, illustrated map includes military information

沼田城の構造

江戸幕府が正保元年（1644）に諸大名に命じて作らせ、元禄九年（1696）に完成した正保城絵図に収められている『上野国沼田城絵図』は、最も信頼性の高い絵図面とされています。正保城絵図は、城の軍事的側面に注目した絵図面であるため描かれている施設は限られていますが、17 世紀中頃の真田氏によって整備された沼田城の姿を知ることができます。沼田台地西端の崖端部に本丸を配置し、西辺は段丘崖となります。南、東、北は堀と塀で区画し、堀は北側の段丘崖へと抜けます。本丸石垣は本丸南東隅部から本丸北東隅部に至る東面部分



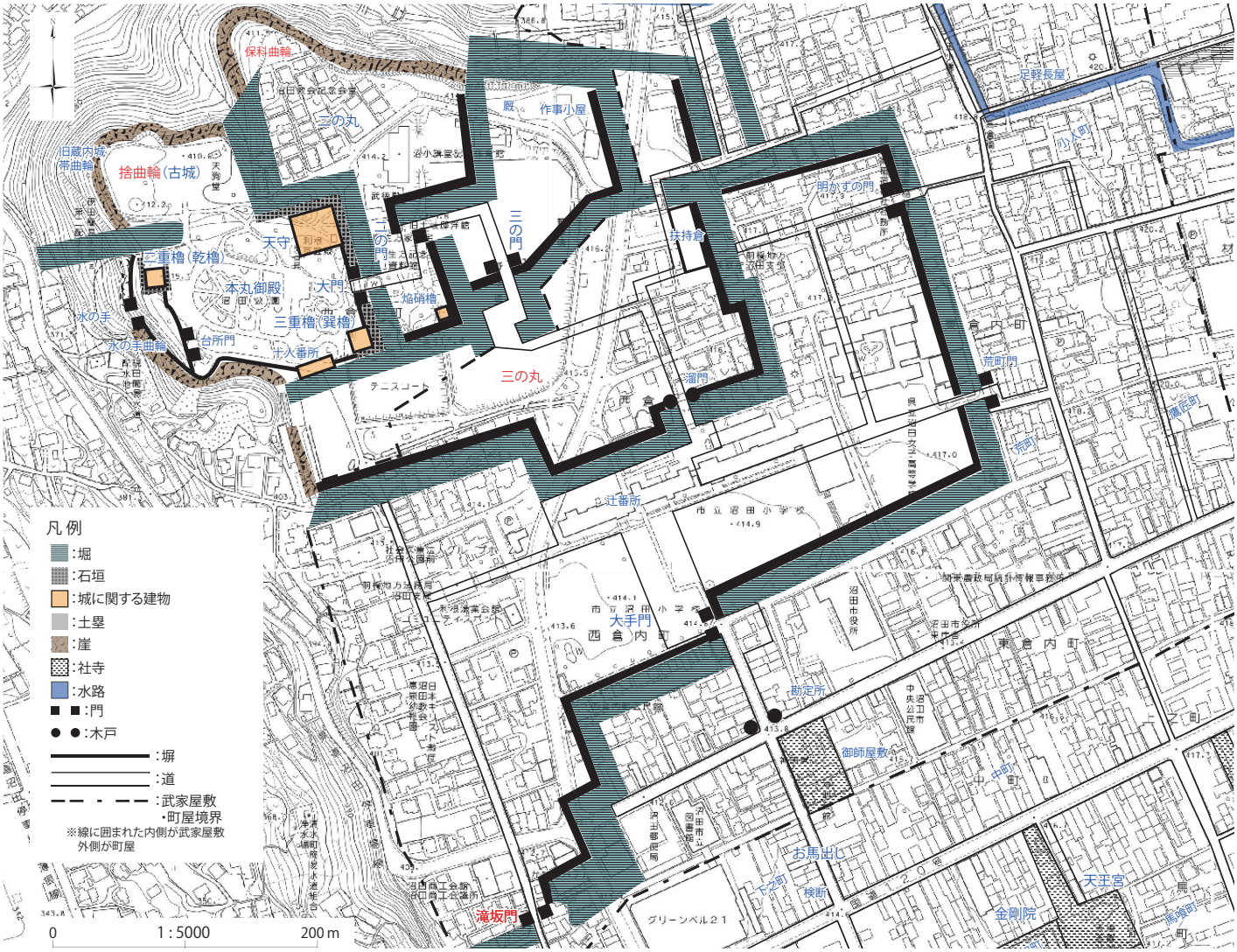
沼田城縄張図（山崎　一『群馬県古城塁址の研究』）/Map of Numata Castle by Hajime Yamazaki

のみ構築されています。本丸は東側に門を開き、北東隅に天守、南東隅に三重櫓、北西隅に二重櫓を配置しています。天守は一見四重に見えますが、描かれていない一重目の屋根の上に載っている破風が描かれてることから、五重であるとされています。なお、下から三重目までの屋根には多くの千鳥破風が見られ、最上階には高欄が描かれており、回縁が巡っていたと推測されます。また『平姓沼田氏年譜略』には、天守は九間十間にして五重と記されています。

本丸の西側の一部は塀で区画され、更に西側段丘崖へ出る門が設置されています。本丸の北側は建物は描かれず「古城」とされ、真田氏整備以前の沼田氏時代の曲輪であることを想起させます。本丸の東側には南北に連なる曲輪、枡形を経由して更に西側に半円形の曲輪が続き、さらに枡形を抜けると東西方向に長い曲輪があり、ここまでが沼田城の中枢部といえます。

真田氏改易と沼田城破却

天和元年（1681）真田信直（信利）の代に役目怠慢の理由から改易されると、翌年城は



現在の沼田市市街地と沼田城跡 /Numata Castle and present-day Numata
（赤字：山崎一『群馬県古城塁址の研究』による名称　青字：その他の資料による名称）

全て破却され堀も埋められました（『沼田城破却記』）。改易後約 20 年を経た元禄 16 年（1703）、本多正永が沼田藩主を命じられた際、堀や土塁は再構築されましたが、その後、黒田氏、土岐氏が藩主となった際には、三の丸に藩邸が建てられたに留まり、沼田城に天守や櫓が再建されることはありませんでした。

沼田公園造成時の様子　大正５年９月撮影（南東から）
Taminosuke Kume develops a Numata Park, photo taken in 1916
平坦地は本丸跡、手前は本丸堀跡、奥に若木の御殿桜がみえる

近代の公園整備

明治時代になり廃藩置県後、藩邸も取り壊され、門などの建造物や城郭用地は払い下げられ、一部は学校用地、民間住宅地となり、そのほとんどは荒地となっていました。これを憂えた元沼田藩士家の久米民之助は、大正 3 年（1914）私財を投じて、本丸･二の丸･三の丸の一部の用地買収を行い、大正 5 年（1916）から総合公園を造成、大正 15 年（1926）当時の沼田町にこれを寄贈しました。こうして公有地化された沼田城跡の一部は、現在まで都市公園、テニスコート、野球場など市民の憩いの場所沼田公園として利活用されています。

現在の沼田城

久米民之助による公園整備の後、昭和 30 年代にも沼田市による公園整備が行われました。また、時代に合わせて様々な設備の建設や改修が行われ、沼田城跡が城郭として機能していた時の姿はほとんど失われています。本丸跡は公園の中心部で、花壇や鳥小屋があり、桜やツツジの時期は特に賑わいます。西櫓台は往時の姿を伝える数少ない遺構で､石垣が全周し、御殿桜と呼ばれるヒガンザクラの老木が枝を伸ばしています。古城は下公園と呼ばれ、利根川、薄根川方面の視界がひらけ、段丘崖上の城郭の眺望の良さを存分に味わうことができます。本丸堀は東側の一部が残存し、本丸石垣を部分的に観察することができます。二の丸から三の丸は堀を埋め立て､グラウンド､テニスコート､駐車場､住宅として利用されています。外郭は市街地となりましたが、三の丸及び外郭の堀と土塁が住宅街に部分的に遺存し、わずかに沼田城の構造を示しています。

沼田城跡の歴史的価値

沼田市は昭和 51 年、沼田城と城下町の形成が、その後の市街地発展の礎になったという歴史的価値から、沼田城跡を市史跡に指定しました。さらに今日的視点で沼田城跡の歴史的価値を述べるならば、①全国的にも希少な大規模な河岸段丘崖に築かれた城跡で、自然環境とその中で人々がいかに生きてきたかを物語っていること、②利根沼田地域は、越後上杉氏、相模北条氏、甲斐武田氏の勢力のぶつかり合う土地であり、沼田城跡はその歴史的証拠であること、③近代以降、城跡が公共空間として機能し、市民に憩いの場、活動の場、歴史を学ぶ場を提供し続けてきたことなどが挙げられます。